

令和4年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3観点のうち、思考・判断・表現及び知識については、向上していると考えられる。
- ・主として「現代社会の仕組みや働き」に関する内容は、定着してきていると考えられる。
- ・上記2点の成果の原因としては、例えば以下のような授業改善がなされてきたことが考えられる。
 - a「これらのことは、なんのために行われているのでしょうか。」といった社会的事象のねらいや目的を問う発問を充実させてきたこと
 - b単に社会的事象を扱うだけでなく、そこに見出される「人」やその働きに着目して学習させてきたこと

(2) 課題

- ・各学年の内容や単元のまとまりにおいて、特徴的に扱う語句等(例：3年の地図記号、4年の47都道府県の名称と位置、5年の4大工業地帯や太平洋ベルト等)が、単なる暗記にとどまっており、その活用や習熟が不十分。
- ・社会的事象について調べまとめる技能のうち、情報を読み取る技能や情報をまとめる技能の定着が不十分。
 ※「～技能」の名称については、学習指導要領解説 社会編P152及び153を参照。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも0.5ポイント下がった。各問題のほとんどの項目で、目標値を下回っている。基礎的な問題の正答率が大きく下回った内容は、以下の通り。 【地域や市の様子】 地図記号、地図の読み取り 【生産・販売】 買い物調べの表の読み取り 【安全な暮らし】 警察(交番のはたらき) 【市の様子の移り変わり】 年表の読み取り 【くらしの移り変わり】 調べ学習の方法、道具の役割	/	/
第5学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも4.8ポイント下がった。各問題のほとんどの項目で、目標値を下回っている。基礎的な問題の正答率が大きく下回った内容は、以下の通り。 【くらしを支える水】 グラフの読み取り 【ごみの処理と利用】【自然災害(地震)】【特色ある地域の様子】 複数の資料からの読み取り 【先人のはたらき】 年表の読み取り	全ての項目で目標値を下回っているが、知識・技能については、全国平均と大差はない。都道府県の様子については、全国平均を上回っている。(第4学年時)	/
第6学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも5.4ポイント下がった。各問題のほとんどの項目で、目標値を下回っている。基礎的な問題の正答率が大きく下回った内容は、以下の通り。 【世界の中の国土】 赤道の位置、雨温図の読み取り、北方領土 【日本の食料生産】 品種改良、複数の資料から読み取り 【日本の工業生産】、 自動車の生産工程、製品開発の目的、 地図の読み取り、グラフの読み取り 【情報を生かした産業】【自然環境と国民生活】 表の読み取り、複数の資料から読み取ったことに関連付け	全ての項目で目標値を下回っている。特に「記述問題」の正答率が目標値を大きく下回っている。(第5学年時)	全体平均で目標値を上回っている。特に、「生活環境を守る活動」では、目標値を大きく上回っている。(第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

- ・特に課題の見られる問題を集計したところ、以下のことが分かった。
 - a その多くが短答もしくは記述問題であること
 - b 上記aの問題では、無回答の児童の割合が誤答を記述している児童の割合よりも高いこと
- ・成果の見られる問題のうち、半数以上が思考・判断・表現を問う問題であった。また、半数以上が現代社会の仕組みや働きに該当する問題であった。
- ・特に課題の見られる問題のうち、半数以上が思考・判断・表現を問う問題であった。また、それらの問題のすべてが、複数の資料から複数の情報を取り出し、読み取った情報を組み合わせて解答を導くものであった。

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域や市の様子、市の様子の移り変わりに関する知識・技能のすべての問題において、校内正答率が、目標値より10ポイント以上低い。地図記号をはじめとする地図の読み取り方についての学習や、現行の学習指導要領で新しく追加された内容が十分に定着していない。	資料に着目して、店の立地と利用について捉えているかどうかをみる問題の校内正答率が、前年度よりも10ポイント以上低い。また目標値と比べても、20ポイント以上低い。複数の資料から複数の情報を取り出し、読み取った情報を組み合わせることが定着していない。	資料に着目して、防犯ボランティアと子どもが被害に合う事件の件数との関連を捉えているかどうかをみる問題の校内正答率が、目標値より25ポイント以上低い。調べたことを振り返り、問題解決を図ろうとするなど、主体的に学ぶことが十分に定着していない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水のグラフの読み取りに関する問題や、北方領土、太平洋ベルト等の名称を答える問題の校内正答率が、目標値より10ポイント以上低い。グラフ等から読み取ったデータ等を活用することや、重要事項の理解が、十分に定着していない。	会話文と日本地図等、複数の資料等から読み取った情報をもとにして解答する問題の校内正答率が、目標値より15ポイント以上低い。また、無回答率が他の問題に比べて高い。必要な情報を選択して適切に取り出し、問題解決に向けて活用することが十分に定着していない。	資料に着目して、工業が盛んな地域の特色や背景を捉えているかどうかをみる問題の校内正答率が、目標値より15ポイント以上低い。また、無回答率が他の問題に比べて高い。調べ学習の目的を理解し、問題解決につなげようとするなど、主体的に学ぶことが十分に定着していない。

3 授業改善のポイント (観点別)

- ・問題解決的な学習の充実を図る。問題解決的な学習とは、児童等の疑問を基に、単元や内容のまとまりを通じて解決すべき学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会へのかかわり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習を指す。このことを踏まえた上で、以下の改善を従前の学習指導に加えて取り組む。なお、現行学習指導要領において、各学年で新しく追加された内容については、大田区内外の先行事例を基に授業研究を行う。

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図帳を定期的・計画的に活用して、2地点間の位置関係や土地の形状、面積について調べさせたり、地図記号等の記載内容から情報を集めさせたりする。47都道府県の名称と位置については、国語科の学習との関連も図りながら、中学年段階で確実に習得させる。	・各単元において、複数の資料を複数用意し、問題解決において必要な情報を明確にしておく。また、読み取った複数の情報を比較したり、関連付けたりする学習活動を設定する。	・調べる学習段階において、授業の初めに「今日調べることと学習問題とのかかわり」を確認させるなどして、当該授業の見通しをもたせる。 ・授業の終わりに「分かったことや、まだ分からないこと」を確認させたり、学習問題と本時の学習のつながりについて考えさせたりするなど、授業の振り返りを行わせる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">資料から必要な情報を読み取らせるために、着目する視点(グラフタイトル、変化の様子や年度の推移、目盛りの単位等)を明確にしてから調べさせる。重要語句の意味、成り立ちについて理解させたり、意図的に複数回取り上げたりして、定着を促す。	<ul style="list-style-type: none">学習問題の解決に向け、調べた情報を順序や因果関係、相互関係を図に整理させる。その際、図をかく際に用いる色や矢印の意味についても確認させる。読み取った複数の情報を比較したり、関連付けたりする学習活動を設定する。学習問題について解決策をまとめたり、考えを出し合ったりする際に、タブレット端末を用いてデジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる。	<ul style="list-style-type: none">5年生の産業学習や6年生の政治学習及び国際学習において、自分の生活と関連付けて調べさせたり、課題の解決に取り組む人物を重点的に取り上げたりして、取り扱う社会的事象に興味をもたせる。